

労 拡大支部代表者会議ひらかれる！



79.7.12
No. 170

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
電話 二二五八一九・(公衆電話) 二二七二〇七

「動労千葉の組織的前進を確認 国鉄大合理化攻撃粉碎の闘いへ」

七月一日、第六回拡大支部代表者会議が開催された。会議は各支部長・書記長・分科会長が出席し、熱気あふれる集中論議がかわされ、当面する闘う方針が満場一致確認された。「三万人のオルグ団」の投入、一億以上の組合費の濫費と「暴力と窃盗」「ニコポン」の使いわけ、さらには、合理化をバスターにした当局への泣訴など、あらゆる手段を駆使しての動労千葉破壊攻撃が失敗に終わった革マル反動集団は、今日では、破産の上塗りをする形で、労働組合として越えてはならない一線をふみこえてしまっている。われわれは、かかる暴挙ともいえる「本部」革マル反動集団の末期的攻撃を真向から受けとめ、全組織力をあげて粉碎してゆく体制を更に強固に打ち固めなくてはならない。

末期的症状を示す「本部」革マル反動集団―最近の情勢―

われわれの着実な組織的前進とそれに規定された、6・15労委認知に衝撃をうけた「本部」革マル反動集団は、その本性をむきだしにした動労千葉破壊の攻撃を行ってきた。労働組合の名をもって組合員を権力に売り渡す（「組合費請求」訴訟・「会館明渡し」訴訟）、「金」で脅迫する（二重の組合費納入のどう喝）という「敵」を叩くためには権力・当局とでも平気で手を結ぶという労働組合にあるまじきファシスト的暴挙（「動労変質の全面開花」にふみきり、更には「労働条件に対するベテンのケチツケ」までせざるを得なくなってきた）。

「労働条件」については、「日刊動労千葉」一六八号で全面的に反論を行ってきたが、まさにわれわれの闘いは、彼らをして、ベテンのケチツケしかできないところまで追いこんできているのだ。

動労千葉の力強い組織的前進は六月二八日蘇我支部の結成大会、各分科会結成にも表われており、これに規定された、佐倉・銚子両支部においても組織整備は着実に前進してきており、前回の支部代表決定に基づく交渉体制強化も、七月二日、七日両日の「幻の小屋原交渉団」の説明員狩り出し路線を粉碎し、一段と強化されてきている。

決定された当面の取り組み

- ① 佐倉・銚子支部の早期結成の獲得、日常的な粘り強い活動の中から早急に結成へ向け全力をあげる。
- ② 全組合員の理論武装の強化、「本部」革マル反動集団をして権力・当局と手を結ばざるを得ないところまで追いつめた、動

労千葉の路線の正しさ。

③ 国鉄大合理化攻撃粉碎の闘い、今時の55・10合理化は、国鉄再建基本構想に規定づけられたもので、旅客・貨物列車削減、ロカル線廃止、民託化、私鉄並みの労働条件（乗務効率のレベルアップ）を具体的内容としつつ、その実、大規模な要員削減―労働強化と国鉄労働運動の破壊にその真の狙いがあることをみすえ、日常不断に職場闘争を強化し「54・10―55・10ダイ改粉碎、ジェット燃料増送阻止」を掲げて闘いを取り組む。以上である。

動労千葉破壊を許さず さらに闘い抜こう！

動労千葉破壊攻撃に失敗した「本部」革マル反動集団は、「千葉再建こそ動労型労働運動の定着」とたわごとをいい、千葉再建の困難性を動労総連合糾弾決議運動にすりかえ、全国的な動労組合員の「造反」をくいとめんと必死になっている。動労千葉の組合員のみなさん。

「動労大改革運動」の大義の旗かけ、末期的症状にたちいたった「本部」革マル反動集団を更に追いつめ、動労千葉破壊攻撃を粉碎しよう。

闘争九年／本山闘争勝利のために 夏季物資販売に御協力を！

全金本山支部は本山資本による首切り、ロックアウト攻撃、全金宮城地本による不当な統制処分抗し、「一人の首切りも許さない」を合言葉にすでに九年間闘いを続けています。不屈に闘い続ける組合員とその家族の闘いと生活を守り、本山闘争を勝利させるために恒例の夏季物資販売を全組合員の力によって圧倒的に成功させよう。
第二次集約は七月十五日です。